校訓　『高く　大きく　美しく』

教育目標

「誇り高く　夢大きく　こころ美しく
よりよい社会を創ろうとする生徒の育成」

中村中学校　学校通信　NO.５　2022.6.10 発行　℡　0880－34－4137：文責　山﨑利彦

１学期も折り返し！授業への取組を高めよう!! ～研究授業を通して～

昨日、今年度第１回目となる全校研（全員の先生が一人の授業を観て研究を深める取り組み）を実施しました。授業者は数学の松岡先生、そして授業に取り組んだのは２年５組の生徒です。この授業は、本校の先生だけでなく、リモートで東京学芸大学の西村圭一先生にも観てもらいましたので、普段の授業とはちょっと違い、多くの先生方に観られる授業でした。

しかし、授業をした松岡先生も落ち着いていましたし、授業に臨んだ２年５組の生徒も立派でした。先生からの問いかけに一生懸命に考えようとする姿、また、自分の考えを発表したり説明したりしようとする姿が多く見られ、事後の協議の中で西村先生からも「とてもいい授業でしたよ。」とほめてもらいました。もちろん、授業の中に反省点や課題はありますが、授業に一生懸命取り組むという姿勢が大切なことだと改めて感じた授業でした。学校の中で、どの時間も、どの学級も、このような授業風景が見られることを本当に願っています。

さて、少し話が変わりますが、ある教室で授業が終わったとき、一人の生徒が「あー疲れた！」とつぶやいたので、私が「疲れた？」と問い返すと、「めっちゃ頭を使ったので･･･」と答えてくれました。「身体を使うと筋肉が疲れる。頭を使うと脳が疲れる。でもどちらも疲れが自分を鍛えることになるね。よく頑張ったね。」と話したことです。生徒の皆さん、毎日６時間、授業では頭と身体を使って、自分の力をぜひ高めてください。

幡多地区総合体育大会(県総体予選)の健闘を期待します！

６月１１日(土)～１２日(日)にかけて、幡多地区総合体育大会が開催されます。大会に参加する生徒には、ぜひ、自分の力を精一杯、出し切ってきてほしいと思います。そして、県総体出場の切符を手にしてほしいとも思います。今大会は保護者の応援も認められていますが、コロナ感染症への対応が求められる中での大会運営です。ルールを守っての応援にご協力ください。

さて、選手の皆さんは、最後まで前向きな気持ちをもってプレーしてください。中学生なので上手くプレーできないことも当然あります。しかし、長い教師生活を通して言えることは、中学校の時はセンスよりも取組姿勢が大切だということです。試合は必ず相手がいますので、普段の練習以上に一生懸命になれるはずです。ミスがあっても自分に負けない強い気持ちをもって、最後まで一生懸命に戦ってください。選手の皆さんの健闘を期待します。

【送迎の車の駐車場所のお願い】

本校の駐車スペースが少ない中でのお願いですが、送迎の際に校舎側にスペースがあるため、車を駐車される方が多くいます。しかし、校舎サイドには側溝があり、コンクリート製のフタでカバーをしています。本来、このフタは車の駐車に耐えられる強度がないため、最近、ひび割れが進んでいます。業者に見てもらうと、重量に耐えきれなくなると陥没するとのことです。そのため、校舎側のスペースにはできるだけ車を乗り入れない(駐車させない)よう、配慮をお願いします。

保護者の皆様のご協力をよろしくお願いします。

【７月の集金　口座振替のお知らせ】

７月１１日（月）に１人６，０００円と手数料１０円（兄弟姉妹は１２，０００円）をゆうちょ銀行口座から引き落としますので、お金を口座にご用意ください。残高不足で引き落とせない事案が毎回発生していますので、残高の確認をよろしくお願いします。

【制服は夏服です】

梅雨入りが目前となっています。学校では、今週から制服が夏服へ移行しています。学校の規定にそった服装(特に下着)に十分気をつけてください。

親（母親・父親）になる…　～親も子どもに育てられる～

毎朝、短い時間ですが新聞を読むのが私の日課です。読むと言っても目を通す程度なのですが、その中でも高知新聞の一面下にある『小社会』は、私のお気に入りです。先日（５月末）、特に心が止まり、考えさせられたいい記事に出会いました。少し要約して紹介します。

先日、カンヌ国際映画祭で映画監督の“是枝裕和”さんが表彰されましたが、是枝監督の忘れられない体験の話です。以前、彼の代表作である「そして父になる」という映画が公開されたとき、記者会見で「女性は子どもを産むと母親になるけど、男性が父親になるには、何か階段を上がっていかなければいけない」と発言したそうです。その後、友人から「女性でも産んだらすぐに母親になるわけではない」と批判され、ハッとさせられたという話です。母性は生まれつき備わっているもので、男性にはそれがないとの見方自体が、男性の女性に対する偏見だとも言われ、猛省したことが紹介されていました。

「家族」や「親子」の関係を問いかけた是枝監督の作品は、私自身、考えさせられることが多くありますが、私も三人の子どもの父親として、悩んだり反省したりすることが多々ありました（これからもあるかも…）。一方で、子どもにはあまり言いませんが、自分自身が子どもに育てられているなあと思うこともありました。多感な思春期の子どもたちを持つ親は、誰もが同じだろうと思います。“生みの親”にはなれても、“育ての親”になるのは、男性も女性も努力を要することですね。

いろいろな家族関係があると思いますが、子どもに向き合い、一生懸命子育てをすることが、子どもを成長させるだけでなく、親も一人の人間として成長することにつながるように思います。一緒に子どもの成長を支えていけるよう、頑張りたいと思います。また、中村中はそんな学校でありたいと思います。

生徒の皆さんへ

「小社会」というと、毎週、定期的に**「小社会」の書き写し**に取り組んでいますね。最後に要約したり、意味を調べたり、感想を書いたりして提出してもらっていますが、この取り組みは、**必ず役に立ちます。**読解力、考える力、そして各教科に共通する力になります。**“やらされる取り組み”ではなく、“やってみる取り組み”へと意識を高めて頑張ってください。**国語科の先生方の評価がどの生徒にも「A」がつくことを願っています！

スクール・ソーシャルワーカー（SSW）の紹介

５月中旬から、本校にお**二人の SSW** が配置されました。**平石真理子さん(女性)**と、**池田昇一さん(男性)**です。平石さんはこの数年間、本校に関わっていただいていますし、池田さんは、以前東山小に勤務されていましたので、子どもたちのことをよく知ってくれています。子どもに関わる課題は、家庭だけ、学校だけで抱えても解決できない社会となっているから SSW も制度化されました。**何か相談があるときは、気軽に学校まで連絡してください。SSW につなぎます。**